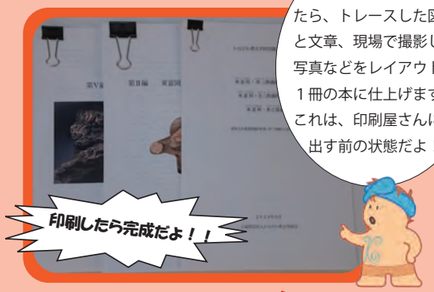
発掘調査がおわったら？？？

発掘作業が終了すると、調査した遺跡の報告書をつくります。
その作業がどんな様子なのか、少しのぞいてみましょう！

【洗浄】

【注記】

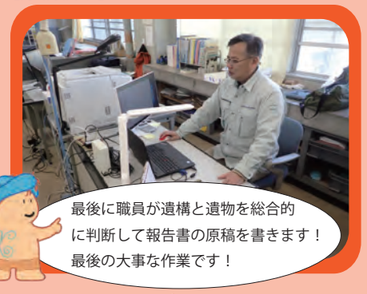
【入稿】



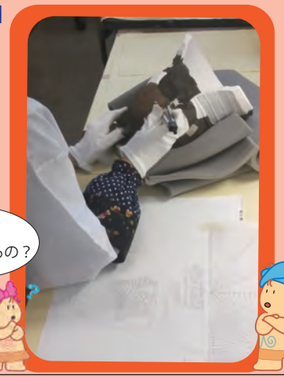
【分類・接合】

【遺構図の整理＆トレース】

【原稿執筆】



【遺物実測】



【トレース】

◎財団の行事案内については、詳細が決まり次第ホームページ・Facebook にてご連絡いたします。

お問い合わせ
(公財) かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
E-mail：fukyu@kaf.or.jp
TEL ：045-252-8689　FAX：045-261-8162

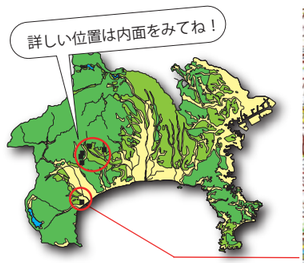
発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

考古学財団発掘帖
№33　2020(令和２) 年第１号
令和２年６月 30 日発行
編集・発行：(公財) かながわ考古学財団
〒232－0033 横浜市南区中村町 3－191－1
TEL：045－252－8689　FAX：045－261－8162
ホームページ：http://www.kaf.or.jp
Facebook：https://www.facebook.com/kanagawakoukogakuzaidan/

考古学財団
公益財団法人かながわ考古学財団情報誌
考古学財団 発掘帖
No.33
2020(令和 2)年第１号

小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡
家老屋敷跡でみつかった水門がある石組み溝

調査地は小田原城三の丸の東側で、江戸時代中～後期に大久保氏小田原藩の城代家老を代々務めた杉浦平太夫の屋敷地北辺にあたります。写真の石組み溝は18世紀になって築かれたもので、溝底には拳大の玉石が敷かれ、途中に石製の水門が設けられていました。溝の方向はおおむね東西ですが、水門の西側で一度南西（矢印Aの方向）に曲がり再び西へ方向を変えています（写真左）。一方、東側（矢印Bの方向）は、貯水池とみられる方形の石組み（写真左下）へ繋がっていました。写真の水門でせき止めて、玉石が丁寧に敷かれた部分に水を張り、東側の石組み内にも水を溜めて防火用水として用いたようです。上級武士の広大な屋敷地にふさわしい水利施設といえるでしょう。



本号で紹介する遺跡

次ページの特集に続きます

今回の見開きは、秦野市内の奈良・平安時代の遺跡についてご紹介しています。近年の発掘調査によってさらに明らかになってきた雅な世界、のぞいてみましょう！！

※調査の内容は発掘時点の成果であり、調査の進展及び出土品整理作業において、名称や評価を変更する場合があります。